

令和 7 年度第 2 回世田谷区立図書館運営協議会

日 時：令和 7 年 7 月 2 9 日（火）午後 6 時32分～午後 8 時31分

場 所：教育会館 3 階大会議室「ぎんが」

出席者：委員（1 2 名）

【学識経験者】糸賀委員（会長）、西村委員（副会長）、石原委員

【公募区民】高良委員、三浦委員、宮岸委員、吉田委員

【社会教育関係者】佐藤委員

【教育機関関係者】豊泉委員

【図書館活動団体関係者】稲葉委員、結城委員

【図書館関連事業関係者】中垣委員

事務局（2 名）

地域図書館館長（4 名）、地域図書館副館長（1 名）

・下馬図書館長、深沢図書館長、桜丘図書館長、尾山台図書館長、上北沢図書館副館長

中央図書館（3 名）

・図書館運営係長、図書館事業推進担当係長（2 名）

次 第：

1 第 3 次世田谷区立図書館ビジョンに基づく各館の取組みの評価・検証

（対象館：下馬図書館、深沢図書館、桜丘図書館、尾山台図書館、上北沢図書館）

2 その他（事務連絡）

午後 6 時32分開会

○会長 それでは、定刻となりましたので、令和 7 年度第 2 回世田谷区立図書館運営協議会を開催いたします。お暑い中、お集まりいただきましてありがとうございます。

本日の出席は12名の委員の方が予定されております。委員 1 名は残念ながら御欠席、それから副会長はオンラインでの参加ということになりました。

本協議会の会議は、これまでどおり公開が原則で速記者の方が入っておりまして、後日、会議録として資料を含めホームページで公開されます。

また、本日も傍聴の方が入っていらっしゃいます。傍聴の人数について事務局から御報告をお願いします。

○事務局 現在、4 名の方が傍聴で入っております。

○会長 ありがとうございます。

本日は、前回の会議に引き続き、世田谷区内の各地域館の評価、検証をすることになります。15の地域館のうち、今日は 5 館を取り上げる予定で、既にお分かりのとおり、あちらに地域図書館の館長さん、あるいは副館長さんということで 5 名の方にお越しいただいております。

オンライン出席の副会長、こちらの声は届いていますか。

○副会長 大丈夫です。

○会長 何か発言される場合には遠慮なく声をおかけください。

それでは、今日も議題が多うございますので、早速議事に移らせていただきます。

次第の 1、第 3 次世田谷区立図書館ビジョンに基づく各館の取組みの評価・検証です。本日取り上げるのは、既に事前に通知があったように、下馬、深沢、桜丘、尾山台、上北沢の 5 館ということになります。館長の皆さんには、ここで出された意見あるいは提案、もちろんその前に質問に答えていただくことになりますけれども、それを今後のそれぞれの館の運営に生かしていただくということで、今日の会議の場を御活用いただければと思います。

それから、この会議の進め方ですが、これはもう前に、昨年度やったときも同じです

し、前回の会議のときと同じように、各館ごとに既に取り組シートが完成されておりまして、それについてそれぞれの館長さんないしは副館長さんから自館について、自分の図書館について御報告、御説明がございます。その後、委員の皆さんから15分程度の質疑、場合によっては意見だとか提案といったものを承りまして、それぞれの図書館で生かしていただくということにいたしたいと思います。

まずは、事務局から今日の配付資料についての説明をお願いいたします。

○事務局 どうぞよろしくお願いします。

まず、お手元のほうに最新版の統計資料として「世田谷のとしょかん」令和7年度版を配付しております。こちらも参考にいただければと思います。

その上で、まずは資料1、各館の児童登録者1人当たりの貸出数についてを御覧ください。こちらのA4横のペーパーになってございます。こちらの資料は前回の世田谷図書館の質疑の際に、児童書の貸出数自体は減少しているというところでのお話があり、児童数が減少している中で、本来は児童登録者1人当たりの貸出数、こちらは児童の実質貸出密度と呼ぶんでしょうか、会長からそういったお話がございました。その状況を比べる必要があると会長からも御指摘がございました。今回の取り組シートでも、深沢図書館と尾山台図書館において、同様に児童書の貸出数に関する記載もございますので、資料1として児童登録者1人当たりの貸出数をまとめてみましたので、簡潔に御説明いたします。

こちら資料1のほうを御覧ください。(A)列、一番左側の列のところに児童登録者数ということで、こちらは各館ごとに登録をしている児童登録者の数を記載しております。

(B)列のところでは、こちらは全登録者児童資料貸出数、児童資料の貸し出しする全登録者ということになりますので、大人の方の貸したものも入っているものが(B)列になります。それを先ほどの(A)の児童登録者数で割ったものが(C)になっておりまして、全登録者児童資料貸出数に対する児童登録者1人当たりの貸出数という形になっております。色をつけているところが増えたところ、令和5年度と令和6年度を比べてということで増減になってございます。また、隣の(D)列のところを見ていただきますと、今度は児童登録者別児童資料貸出数となっております、こちらは大人の方は入っておりません。あくまでも児童の年齢で借りた貸出数ということになっております。それを各館ごとにまとめた数値を(E)列のところ、また同じように(A)の児童登録者数で割ったもの、こちらが(E)になっておりまして、こちらも増えたところが網かけになっている

というものでございます。なお、星印を一番左につけているところ、こちらは1人当たりの貸出数は、令和5年度から6年度にかけ、児童の資料貸出数は減っているが、1人当たりの貸出数は増加しているというものになっております。中央と経堂図書館は、児童貸出数についても実際には増加しているという状況でございます。

以上でございます。

○会長 ありがとうございます。この資料1、前回の会議の後に事務局のほうで作っていただきましたので、若干補足させていただきます。前回の評価のときに、最初にあった世田谷図書館から貸出人数の延べ数というのが指標として出されてきた。今日、前回の資料をお持ちでないと思いますので、簡単に済ませますが、貸出者数の比率というのが出てきまして、これが延べの貸出人数なんです。これはいささか分かりづらい数字なんです、私のほうからその場で、でしたら、実質貸出密度と図書館情報学の世界では言うんですが、登録者1人当たりがどれぐらい借りているのか。つまり子どもさんの人数全体が減っていますので、延べの貸出者数はそう簡単には増えないんですよ。それで評価するよりは、登録した子どもさんが1年間に何冊借りているのか、このほうが子どもの人数全体に左右されないので、適切ではないかという意見というか、提案をしたわけです。

それに基づいてこれを事務局で作っていただきました。そうしましたところ、(A)欄、一番左を見て増減という欄がありますね。増減で減っているところは三角がついております。これで見ると、多くの図書館で三角がついて減っているんです。これは児童登録者数ですから、子どもが減れば、おのずと減ってくることは予想されるわけです。それで、今度は(C)欄のところでは、全登録者児童資料貸出数に対する児童登録者1人当たりの冊数ですか、これは大人の方も児童書を借りられるので、大人の方による貸出しも含めて、子どもさんの登録者1人当たりの貸出冊数が出ております。この(C)欄を見ただけでも、網かけというか、この薄いオレンジ色の網がかかったところは実は増えているんです。1人当たりの貸出しが増えているんです。特に2以上というのかな、例えば中央図書館は2.18、その下の奥沢2.31、そこらあたりは増えている。逆に今日報告がありますが、深沢図書館を見ると、これが三角マイナスで6.1というのはかなり大きな減少を意味するんです。登録している子どもさん1人当たりの貸出冊数がこれだけ減っている、こういう数字にしたほうが実態はよく分かるのではないかと思います。最後、(E)欄、これは(C)欄とよく似ていますが、今度は児童書は大人の方も借りられ

るんですが、大人の方を除いて、児童の登録者だけにした場合の数字が（E）欄ということになります。ここでも見ていただくと分かる通り、かなりオレンジ色の網がかかったところが増えまして、実際は増えているところも結構ある。もちろん減っているところもあります。やはり数字が増減というところで、2を上回るようなものはかなり大幅な増加だったり、減少だったりすると思います。

今日この場にいらしている、例えば深沢図書館は、この一番右の欄の増減を見るとマイナスで三角がついて2.76、登録した子どもさん1人当たりで年間の貸出しが2冊以上減っている。さらにその3つ下が上北沢、今日も上北沢の副館長さんがいらしていますが、ここがマイナスで2.48ということで大幅な減少、これらは当然それぞれの図書館によって背景といいますか、理由があるわけなので、中にはもっともだろうというような理由も考えられますが、これらを基にそれぞれの図書館での1年間の活動状況を振り返るというほうが意見交換しやすいし、その背景にあるものを探ることもやりやすいのではないかと考えるわけです。ぜひ今後のこの場での点検、評価といいますか、評価、検証にこういった数字も活用していただければと思います。

最後に、この15館の評価、検証が終わったところで、世田谷区の図書館の全体の課題を洗い出したいと思います。つまりこの会議の場でいうと、来年1月だとか3月の場で、個別の図書館じゃなくて、世田谷区の図書館全体についての問題を洗い出すときに、1つの議論の材料といいますか、素材に十分なり得るだろうと、子どもさんの読書、いろいろ子どもをめぐる環境が変わっていますので、本を読む子が減るのは致し方ないんだというような考え方もありますが、一方で学校の先生方の取組もありますので、ここらあたり協議会の委員の皆さんも含めて、世田谷区全体の問題として共有をし、解決の方向を見つけていこうというための一つの素材になるだろうということで、事務局のほうで資料を作っていただきました。ありがとうございました。

それでは、早速、今日の本題のほうに移ってまいります。資料の説明を事務局からお願いいたします。

○委員 ちょっと確認だけ事務局に。児童というのは18歳未満のことを言っているんですか。

○会長 多分一番上に書いてありましたね。左上、児童はゼロ歳から12歳。

○委員 分かりました。

もう一つ、これは登録されている方の生年月日で自動的に更新になっていくんですね。

○事務局 3年ごとに更新の手続きが必要になっておりまして、そういう意味では更新の手続きをしていただくという形にはなります。

○会長 さらに補足すると、入学するときに、区立の学校に入るときには自動的に登録するんですね。

○事務局 そうです。新1年生には、自動的にというか、学校にお願いをして登録していただいているという状況でございます。

○会長 ということのようなんです。だから、3年生が終わったときに、4年生になるときに、また登録し直すわけです。6年生で卒業するときに、一応もう今度は子どもとしての登録が終わるという仕組みになっているようです。

○事務局 正確には3年がたったときでカウントするようなので、4年生のちょっと遅くなる。誕生日ごとに、少しずれが生じてくるようでございます。

○会長 ということのようであります。よろしいでしょうか。

それでは、続きまして、資料2の今度は各館の取組シートについての説明をお願いいたします。

○事務局 それでは、事務局より、前回と同じですので、簡単にまず説明をさせていただきます。

資料2のほうを御覧ください。こちらの取組シートです。つくりは前回と同じでございます。前回も各館長の説明に時間を要しましたので、説明は取組シートに取り上げている取組のほうを中心にさせていただければと思っています。各館ごとの概要は、取組シート

の次のページに記載してございまして、レイアウトであったりとか、各図書館の実績数などを載せております。また、一番最後、21ページ、22ページのほうには、今回対象の館は22ページのところに色を網かけしておりますが、こちらのほうに特色ですとか、各館の取組などを記載してございます。こちらも参考にしてください。

それでは、早速ですが、各館の館長さんから御説明をお願いしたいと思います。

まず最初は、指定管理館の下馬図書館からお願いします。よろしくお願いします。

○下馬図書館長 下馬図書館です。早速発表させていただきます。当館は、指定管理で運営となっておりますので、御承知おきください。

まず1ページ目を御覧ください。今回図書館ビジョンから取り上げた項目は、お手元の資料のとおりでございます。その項目の課題について、目標としましたのが、1つ目が、体験を通じて読書への関心を高める多角的な取組を展開する。2つ目に、地域の団体と関係構築を進め、多様な場面で協働できる機会を創出するの2点となっております。

続いて、取組みの実施状況について幾つか取り上げて御報告いたします。なお、事業の多くが体験型、かつ地域連携の要素を含んでいますので、両方に該当するものとして数値をカウントしております。御承知おきください。

改めて体験を通じた読書の取組について御報告いたします。昨年度、子どもたちに本の魅力を体験的に伝えることを重視し、五感で楽しめる読書プログラムを展開いたしました。まず、世田谷ふしぎの本プロジェクトでは、子どもと昭和女子大学の学生が共同してオリジナルの絵本を制作する取組を行いました。参加枠を拡大しまして、完成作品も増えるなど、子どもたちの創作意欲が広がりました。また、完成した絵本を制作過程を紹介するパネルとともに図書館内に展示することで、事業の終了後も、本づくりの楽しさを来館者に伝える工夫を行っております。本日は実際に完成した絵本も御用意しておりますので、お時間がありましたら、お手に取っていただけたらと思っております。

○事務局 もしよろしければ、少し回させていただきます……。

○会長 回覧してください。

○下馬図書館長　続きまして、11月にはかまどで火を起し、焼き芋を作りながら読み聞かせをするという事業を行いました。自然の中でたき火を囲みながら物語に触れることで、子どもたちが五感を通じて本の世界に入り込み、読書がより身近で豊かな体験となる環境を演出いたしました。

続きまして、2ページ目を御覧ください。足湯につかりながら物語を聞くおはなし会を実施いたしました。こちらは12月の肌寒い環境ではありましたが、足湯で極楽気分を味わいながら読書の世界に浸っていただくという事業になっております。地域のお祭りである極楽フェスと協働した事業となっております。

次に、地域と協働についての取組について御報告いたします。まず、あおぞら図書館は、商店会、国士舘大学、昭和女子大学、平和資料館と連携した世田谷公園内での野外事業となっております。図書館の除籍資料を活用しまして、大学が用意されたフリースペースで青空の下で読書環境を整備しまして提供するというものです。こちらは移動図書館も出展しまして、通りすがりの方に図書館の取組に触れていただく機会となりました。

次に、大きな取組としまして、ライブラリーブックサーカスを開催いたしました。これは図書館と隣接する公園をサーカス会場に見立てまして、読書とエンターテインメントを融合させたイベントとなっております。大道芸人のパフォーマンスや昭和女子大学吹奏楽部の演奏、絵本をテーマにした謎解きゲームなどを実施しました。ほかに図書館キャラクターのフォトスポットや自主生産品の共同制作を通じて福祉作業所の活動を地域に紹介する機会にもなりました。さらに、地域の歴史や記憶に触れる平和事業として、戦時中の地域の疎開学童と特攻隊員の交流を題材にした地元の作家による講演会と、世田谷観音、平和資料館ほか関連施設から資料の提供を受けましてパネル展を開催いたしました。講演会には夏休み中の小学生も参加されまして、地方からの来場者も見られるなど地域を超える関心を集めたと思います。

最後に、取組みに対する自己評価ですが、子どもの読書を支援する取り組みの拡充のテーマでは、企画内容や連携団体の充実により、子どもたちが体験を通じて主体的に参加できる場が広がり、読書をより身近に感じられる環境づくりが進みました。また、地域の人々との連携、地域の人々の図書館活動への参加では、地域との協働によって、世代や立場を超えてつながりを育む場となりました。来館者数も増加し、図書館をきっかけに、人と人、人と地域が結びつく機会を創出できたと感じております。

報告は以上となります。

○会長 ありがとうございます。それでは、ただいまの下馬図書館について何か御質問、御意見があればお出しください。いかがでしょうか。

○委員 今回の御担当館ということで下馬図書館が居住のエリアからちょっと外れておりましたので、ゆっくり拝見したのは初めてだったんですが、環境がすばらしいなと思いました。公園に隣接していて、2階の閲覧室や、おのおのが学習したりするスペースから見える景色も、古きよき図書館の雰囲気があって愛されている場所じゃないだろうかと思われました。

そして、現在、企画展示されております「向井潤吉の戦争体験」でしたでしょうか、こちらが本当に内容の深い企画だと思い、じっくり拝見いたしました。ただし、それが踊り場というか、階段に沿った展示となっていて、この後、9月からは、せたがや未来の平和館でさらに展示があるということでしたけれども、あれだけ充実した展示が足腰の強い方しかゆっくり見られないというのはとても残念だなと思いました。そして、今、回覧していただいた絵本などもどういう形で展示されていたのかなと、じっくり見られるところで来館者の方が楽しめるといいなと感じましたので、その点が、スペースに限りがあるかと思いますが、もう少し工夫していただけたらいいのかなと思いました。

以上です。

○下馬図書館長 御質問ありがとうございます。パネル展も御覧いただきありがとうございます。下馬図書館では、平和資料館が最寄りにあるということで、毎年連携して企画展をさせていただいております。展示場所につきましては、どうしても図書館内の展示スペースとなりますと、通常いろんなポスターを貼っています階段踊り場等の掲示板を使った展示となってしまいます。こちらは私どもも大変残念に思っておりますけれども、スペースの都合上、そういった形になっております。御承知おきください。

また、絵本のプロジェクトの展示につきましては、子どもコーナーで本棚の上に制作過程などを御紹介しながら貸出しができる状態で置いておりますので、こちらは展示スペースについては問題ないかと考えております。

以上です。

○会長 ありがとうございます。私も今日こちらに来る前に立ち寄りまして、この向井潤吉さんの戦争体験、このパンフレットもよくできていますね。これと今の階段の踊り場のところの展示が見事にタイアップしてしまっていて、これも随分費用をかけている、コストをかけているなと感じました。出来栄えもなかなかいいと思いますね。そういったイベントがここでは来館者数の増加につながっていると理解されていますか。

○下馬図書館長 来館者数の増加につきましては、どれが要因かといいますと、複合的なものなのかなと考えております。パネル展もそうですけれども、昨年度は実施したライブラリーブックサーカス、こちらは公園隣接の事業となりますけれども、来場者数が大変増えました。そういった事業をやっているということと併せて、地域連携を含めて地域の自治体ですとか、そういったところとの連携を深めることで、図書館の存在について地域に知らせる機会になっているのではないかなと、それが来場者の増加につながっているのではないかなと考えております。

○会長 そうであれば、これはどこか指標に、この(1)や(2)の取組の際に、私は来館者数そのものを上げてもいいんじゃないかと、特にそういうイベントをやった月には、来館者が増えているということであれば、月ごとの来館者数、そして年間の来館者数の増加につながったということを示せると指定管理らしい取組とも言えるんじゃないかと感じました。ありがとうございます。

ここについては、国士舘大学とも連携しているということなんですが、リモート参加の副会長、ここらあたりについては何かコメントはございますか。

○副会長 先ほど説明がありましたように、昭和女子大と国士舘大学、それから平和資料記念館と地元の商店会で三宿あおぞら図書館という企画を4年間にわたってやってきました。実は今日もお昼に、今年度のあおぞら図書館の打合せを行っていたのですが、既に世田谷公園の近くに新しくオープンした「HOME/WORK VILLAGE」という世田谷区のコワーキングスペース、さらには地域で個性的な活動をされているNPOなど、いろいろな方が今年度からかなり加わることとなっており、あおぞら図書館の活動の内容自体がどんどん年を追うにつれグレードアップ・拡大しているので、その辺もぜひこのシートの中でアピールできると良いのではないかと思います。

○会長 ありがとうございます。そういった多様な取組をされているということで、そこらあたりは私どもとしても大いに評価したいし、それが分かるようなこのシートの完成を目指していただけるとよろしいかと思います。

○委員 私も先日、下馬に参りまして、向井潤吉のをまじまじ見させていただきました。ああやって近い距離で絵を見られるということは、本当に図書館ならではのというか、美術館だとそうはいかないけれどもというのがあったので、私はすごくいいなと思ったんですけれども。

以前からも下馬図書館の地域との取組というのを聞いていたことと、あとたまたま昭和女子大に入ることがありまして、学生の読書活動に対するいろんな活動というのをちょっと見るのがあったんです。また、今回、図書館の中で書かれたポップが展示してあったりとかというのがあったので、大学の中だけではなくて、図書館の中にもそういうところがあったというのはとてもいいなと思ったんですけれども、思ったよりもいろんな活動をしていらっしゃったというのが、今日お話を聞いて分かりました。ただ、図書館に伺った際にそれがあまり分からなかった。多分置いてあったとは思うんですけれども、今、回覧させていただいた本もどこにあったのかが私は見つけられなかったので、せっかくの回数で、スペースのことも十分あると思うんですが、せっかくのこういったいろんなイベントがもう少しアピールできるような感じ、来館した方が分かる感じだと、もっと図書館に足を運ぶきっかけになるのかなと思いました。

最後の4ページのところの増減数を見たときに、どうしても児童書、貸出数というのが実際どうかというのはちょっと分からない、私は判断できないんですけれども、どうしても減っているところが多い、貸出数自体が減っている。もちろんいろんな御時世の内容はあると思うんですけれども、行って、本を手取るきっかけの様々な取組と考えたときに、せっかくのイベントが、もっとアピールというか、こんな楽しいことをやっているんだというのがより一層、知らないで来館された方が気づくような展示をしていただけるとよりいいのではないかなと私は思いました。

○会長 ありがとうございます。何かコメントございますか。

○下馬図書館長 貴重な御意見ありがとうございます。ポップ展示につきましては、今年度初めて開催しているんですけれども、大学側の要請もございまして、来年度、再来年度と継続した事業にできないかと今打合せをしているところです。そういった面も含めて、館内でどこかを見れば連携した事業の何か痕跡といいますか、様子が見られるような、そういう常設展示なども考えていきたいと思っております。ありがとうございました。

○会長 今のやり取りを聞いていても、実は貸出冊数だけではなくて、最近の図書館は、とにかく図書館の中にとどまって勉強している人もいれば、本を読んでいる人もいます。そういう意味で、私は滞在時間とか、図書館資料の閲覧時間は、やろうと思えばこれを測定できるんですが、そういったことをそろそろ考えたい。一方で、携帯電話を持っている人が多いので、あれで図書館の中の滞在時間は大体分かるんですよ。携帯電話を持っている方が、GPSで調べようと思えば調べられるんですよね。あとは個人情報の問題もあるので、プライバシーへの配慮が必要になりますが、そういうことを考えていかないと、貸出冊数だけを見ていると、こういうすごい特色のあるイベントをやったり、展示をやったりといったものの効果が必ずしも貸出冊数には反映されないのでは、というようなことを感じました。ありがとうございました。

これは全体にも絡むことなので、いずれ全ての図書館の点検とか評価が終わったところでまた話題にしたいと思います。

それでは、次の図書館、今度は深沢図書館のほうに移らせていただきます。館長、お願いいたします。

○深沢図書館長 深沢図書館です。よろしくお願いします。

深沢図書館は、第3次図書館ビジョンで基本方針が知識を深め認識の世界を広げるコレクションの構築と提供と、あと地域の各施設、機関との連携についてを選択しました。こちらの知識を深め認識の世界を広げるようなコレクションの構築と提供というのをなぜ選んだかということ、第3次図書館ビジョンの中でも、図書館というのは本来、社会全体で活字離れが進む中、蔵書を収集し、区民に情報や知識を届けていくのがやっぱり図書館の基本的な業務なので、一番重要なことだと思ひましてこちらの選択をさせていただきました。それをやるためにどうしたらいいかというと、まず、利用者のニーズを反映した資料収集を行うということと、あと選書した本を展示コーナーに置いて分かりやすく魅力を発

信するとともに、いろんな方へのサービスの充実を図るということを考えました。もう一つとしては、最近図書館でもいろいろな施設と協働でいろんなことをやっているのですが、こちらのほう、深沢図書館は駅から離れていて、なかなか新規の利用者が来る機会が少ないので、そういった方々をどうやったら呼び込めるかというのを考えていく上で、その地域の同じ建物内にある施設とか機関と連携していくのが重要だと考えました。それでこの2つを選ばせていただいたんです。

まず、知識を深め認識の世界を広げるようなコレクションの構築と提供ということで、選書については、利用者のニーズに応えるよう、予約の多い本をまず一番入れるようにしているんです。あと、最新の情報に対応した実用書ということで、最近特に何年度版とかいう本が多いんですけども、そういうのが私が来た年は結構古い本が多かったんですけども、そちらの特に300番台とかの社会とかの本は、やっぱり法律とかが変わると通用しないものが多いので、そういうのは多めに買うようにしています。それだけでなく、長く読み継がれている本というの、最初やっぱり人気のある新刊本とかをつい多く買ってしまうがちなんですけども、やっぱりロングセラーとかを本屋さんとかでリサーチして、重版とかかなりされているような本は入れるようにしています。

除籍に関しても、本の状態を見て、特に希少な本は保存庫に送るなど、慎重に行っています。

あと児童文学作家の中川李枝子先生が、最近お亡くなりになられてしまったんですけども、その前に名誉区民になっていて、もともと地元の方だったので、その展示コーナーがあるんですけども、そちらのほうをマンネリ化しないように展示を工夫して置いています。「ぐりとぐら」は6か国語に翻訳された絵本や点字版も所蔵しているんですけども、去年はそれのほかに「ぐりとぐら」コーナー以外にも、外国語の児童書を積極的に収集し、特に外国語に関しては、去年は51冊受け入れたんですけども、ちょっと多めに入れるようにして、コーナーを広げていっています。

またLLブックコーナーを常設しています。触れる絵本や点字の本もあり、配慮が必要な方への理解を広めています。

地域との連携に関しては、近くに学校があるので、そういうところから図書館見学のオファーがあったり、あと区民センター・児童館との共催行事があるので、まずそちらのほうは定期的に行っています。深沢地域は、1校の1学年の人数が100人ぐらいで多いほうなので、4クラスとか、今年は3クラスだったりするんですけども、それを一度に図書

館見学をすると、1クラス二、三十人なので、4クラス一度には入り切れないので、例年児童館と交代で一度に2クラスを入れ違いにして案内するようにしています。

児童館が同じ建物にあるので、児童館や区民センターとともに敬老の日のプレゼントづくりであるとか、クリスマス会とか、新年子どもまつり、深沢文化祭というのを協働で毎年行っていて、コロナ明けになってだんだん受け入れられる人数も増えたこともあって、そういったイベントの参加者は年々増えています。そのイベントの特に深沢図書館では、リユース本コーナーと写真で紹介しているものを出しているんですけども、年々やっぱりまとめてコーナーを広げていった関係で、大体この深沢文化祭でもかなりリユース本コーナーは見ている人が一番多かったようなコーナーになっています。

出張おはなし会では、小学校2校に赴き、2年生向けに手遊びや読み聞かせを行っていますが、これは今年も継続して行っています。

ほかにも独自の行事として、区民センター会議室で子ども向け行事として折り紙を折ろう、大人マナー向け行事として本の装備体験と豆本づくりを実施しました。これはほかのと協働というより、こちらで独自にやったんですけども、特に本の装備体験と豆本づくりは、イベントを決める際にやっぱり図書館に関係のあるイベントをやりたいというのがあって、それであまり経費をかけずにやれるものということで、本の装備はブックカバーをかけるのはかなり好評だったのと、豆本づくりも、今見本をちらっと持ってきたんですけども、こんな感じで、大人向けなんですけれども、好きな形の紙を選んで、中の色も選んで自分で本が作れるという企画をやって、結構紙を選んでもらったりして、やっぱり参加した人はかなり好評な感じで、経費自体もほぼかからずに、こういった厚紙とかの細工にちょっと時間がかかるだけでやった感じなんですということで、こんな感じのイベントをやりました。

やっぱり深沢図書館は、同じ建物内に区民センターや児童館があるので、そういったところと一緒にイベントを行うことで——どうぞ、回してください。下馬の後に回すとちょっと申し訳ないんですが、そんな感じのものをやっています。

深沢図書館は、児童館とかと一緒にイベントをやる機会が多いので、そういったところと一緒にやることでふだん図書館を利用しない層にも図書館のことを知ってもらったりできるので、そこはいいと思うんですけども、ちょっと最近、児童館にお客さんが行っているような気がして、確かに子どもの数は減っているの、それを追及されるとちょっと心苦しいなと思っています。今年もまたいろいろ児童館の行事と一緒にやること

によって、少しでもお客を取り戻せたらと思っています。

では、何か。

○会長 ありがとうございます。それでは、この深沢図書館について何か御質問、御意見がありましたら、お出してください。

○委員 3年ほど前に深沢図書館に参りまして、大変よい印象を受けました。そのときの展示も、やはり「ぐりとぐら」コーナーだったと思うんですが、3年前と同じというのは、その後もずっとこのコーナーが中心ということなんでしょうか。それとも、ほかの展示もしていたけれども、たまたま同じテーマのものを取り上げられているんでしょうか。

以上です。

○深沢図書館長 「ぐりとぐら」コーナーに関しては、もうずっと10年以上前から展示コーナーが——各館で特色のあるコーナーを作ろうというのが昔あって、それでそれぞれの館にそういう特色のあるコーナーがあるんですけれども、一時的な展示コーナーではなくて、ずっと中川先生のことをこちらで応援したいという感じで、地元の作家の方で置いているコーナーです。ただ、やっぱり同じコーナーをずっと置いているとマンネリ化したりしてしまうと思うので、何か展示とかを工夫したりして、ちょっとずつ変えたり、近くの学校にポップを書いてもらって、それを飾ったりとか、ちょっと変化はあるようにはしているんですけれども、やっぱり長期的に応援していきたいので、また今後やっていきたいとは思っています。そのほかに、通常の展示じゃなくて一時的な展示コーナーというのもほかの場所に幾つもあって、今大人の本だと、深沢万国博覧会という本で巡る世界の国々というコーナーをやっているんですけれども、そのコーナーも「ぐりとぐら」に比べたら小さい展示コーナーなんですけど、最近の展示コーナーは定期的に入れ替えているんですけれども、その中では比較的貸出率も高くて、8月中旬までやろうと思っています。

そういう感じで、子どものコーナーもパレトリーディングといって、いろんな色を毎年テーマにして、その色の本を集めるコーナーと、そのほかに、その時期によって、今だと戦争がテーマなんですけれども、季節ごとに展示は変えるようなコーナーはありますので、よろしくお願いします。

○委員 いつも「ぐりとぐら」だけではなく、いろいろな工夫をなさっているということも盛り込まれたらいいんじゃないかなと思いました。

以上です。

○深沢図書館長 ありがとうございます。

○委員 多分「ぐりとぐら」は30年近く、私が引っ越して来たときにあって、ここに住んでいらっしゃるんだというのを気づきましたので、園芸高校の周りに住んでいらしゃったんですね。だから、ここなんだと思って、ぜひとも充実させていっていただければと思います。

それで、その下に外国語の児童書と書いてあるので、方針の中にも日本語を母国語としない云々というのがありますので、深沢図書館の大きさが51冊はかなり大きいんですよ。これは地元の要望で選んだのか、図書館の方が何かの基準で選ばれたのかというのをちょっと教えてもらえればなと思ったんですけども。

○深沢図書館長 もともと図書館ビジョンでいろんな方を受け入れる図書館ということで、外国語の本か、あるいは障害のある方とか、そういった方を受け入れられるように、そういう資料を充実するようにとなっていたんですけども、その中で、深沢図書館は、実際、外国語の絵本をある程度追加で入れたいなという職員の思いもあったりして、外国語の絵本は結構データとかを作るのは大変なので、なかなか一度にたくさん入れられないんですけども、去年いた職員が頑張って51冊、よその図書館にもない本とかを入れたりとかしているので、実際、図書館の貸出数の書架別の割合、今日この会議に来るに当たって私、ちょっと調べたんですけども、深沢図書館の本は、今借りられているのはたしか17%ぐらい借りられていて、書架別だと借りられている平均はそのくらいなんですけれども、でも、そこの外国語の絵本は20何%借りられていたので、やっぱり新しい本が多いせいか、ほかの書架よりちょっと多めに借りられているので、入れてよかったのかなと思っています。

○委員 それで、今の20何%はデータのことをおっしゃったので、事務局にちょっとお尋ねしますが、頂戴したいろんな資料を全部見ても、外国語の本というカテゴリーがなく

て、どこに幾らあるのかなというのがちょっとつかめないんです。これはもうデータとかをお持ちなんですか。

○会長 事務局、分かればどうぞ。

分らないんですか。外国語といってもいろいろだと思いますが、韓国語、中国語、英語。

○事務局 外国語ということでは、今、統計を取っていないようでして、特に公表しているものはほかでもないです。

○事務局 中央図書館です。

資料のほうで公表しているものはないんですけれども、図書館ホームページの検索のところから外国語の言語ごとに検索することができて、そこで冊数等は確認していただくことは可能です。

○委員 貸出数とか、利用状況は分かるんですか。

○事務局 統計上はまだ出していないんですけれども、個別に別途抽出することは可能かなと思っております。

○委員 個別にというのは中央図書館でというような形ですか。

○事務局 中央図書館のほうでデータを抽出することは可能です。

○委員 外国語の図書の購入する、収集する基準というのは何かあるんですか。今、中央図書館は、さっき見てきたんですけども、特に買わなくていいようなものもあるような気がするんです。どういう基準で選んでいるのかなと思うんですけれども。

○深沢図書館長 やっぱそういうのに詳しい職員が中心に選んでいるんですけれども、私がうっすら聞いた話なので、ちょっと裏取りまではしていないんですけれども、その話

だと、選んだ職員は、やっぱり海外で何か賞を取ったり、海外で有名なものを自分でリサーチして買っているという話でした。だから、深沢の場合は、海外で何か賞を取ったものとか、そういう評判がいいものをやっぱり職員が個別に調べて、それを買っているという感じです。

○委員 個人芸ですね。

○深沢図書館長 有名な本とか、そういうのだと結構入りやすいのかなと。海外の絵本で日本にもある絵本なんだけれども、それを英訳した有名な本とか、そういうのも割と入れやすいのかなと思います。

○会長 貸出しの冊数には入るんですよね。だから、分野ごとの貸出しで、外国語は別カテゴリーで出てくるのではないですか。

○事務局 統計データから抽出することは可能です。

○会長 だから、今日見ている資料の中に外国語の貸出しも含まれているんですよね。

○事務局 そうです。外国語資料、絵本だったら児童のほうです。それ以外のものでは一般のほうに含まれています。

○会長 分かりました。ありがとうございます。

○委員 地域の各施設、機関との連携というところで、区立の小学校とかの連携が、令和5年と6年で比較すると結構減っているなという印象があって、課題として挙げている中で、こういうふうになっているのは何でかなというのと、自己評価のところで、「学校からの申し出が減ったため、数字は下がった」と書いてあるんですけども、図書館側から学校に対して何か働きかけとかをしているかということをお伺いしたいです。

○会長 ありがとうございます。あと、私もその点が気になったので、併せて、さっきも出てきた子どもの本の登録者1人当たりの冊数が、世田谷区内の図書館で、とにかく深沢図書館が一番減っているかな。最初に示されたこの数字ばかり並んでいる表で、一番右の増減の欄で、三角がついているのが減ったわけなんですけど、絶対値として一番大きいのはやっぱり深沢図書館が2.76減っているんですよね。これは世田谷区内の全ての図書館で一番大きな減り方だと思うんですが、ここらあたりも含めて、やはりちょっと子どもさんへのサービスへの取組で何か不十分な点があったとか、これが原因じゃないかとかというのがもしもお分かりでしたら、教えていただきたいと思います。今の委員の質問と併せてお答えいただければと思いますが。

○深沢図書館長 一応図書館の、まず学校からの連携なんですけれども、こちらのほうは大体それぞれ担当の学校とかが割り振られていて、その学校からオファーが来ることが多いんですけれども、そちらのほうが多分5年は3校が図書館見学に来ていたけれども、6年は2校という感じで、来ていたグループが来なくなったというのはあるんですけれども、ただ、もともと参加するのが全クラス来るところと、単発でグループで、1グループだけ来るとかもあって、それが何で減ってしまったのか、私もずっと今年に入って、この減り具合は何なんだろうと思っていて、来た年はすごいいっぱい来ていたんですけれども、何でなんだろうというのはなかなか答えが見いだせないところで、何が変わったかという感じはあるんです。

もともと深沢図書館は、数年前の統計を見ると、ほかの図書館と比べて子ども活動が結構活発で、ハードルはかなり高かったんです。たしか深沢と鎌田だけは児童書の貸出しのほうが一般書より多かった年が、来たてだった頃はそうだったんです。それが最近急に、子どもがあまり書架に来なくなったなというのを私もちょっと感じていて、そして学校のオファーに関しては、ただ、3校のうち2校で、1校何で来なかったのかというのはちょっと分からないんですけれども、3校で1学校が、人数が多いので、減るとそれはそれでかなり大きいなというのはあって、ただ、もともとかなり高いハードルにはあったんじゃないかなというのは、全館と比べて、やっぱり最初、児童書の貸出しも多い館だったので、それがコロナが明けて、逆に同じ建物で、児童館に行くと、子どもたちの人数が明らかに増えているんですよ。そこそここの違いは何だろうと思うと、やっぱり図書館は友達同士でわあわあ騒いだりできないけれども、児童館はすごい騒いでいる子たちがいっぱい

いいて楽しそうなんです。それもあるのかなとちょっと思っていて、うまく答えが言えなくて申し訳ないんですけども、やっぱり図書館は、コロナのときとかは静かに本をいっぱい家で読もうとって親とかも借りていくんですけども、今はこういうふうに児童館でみんなで仲よく遊べるようになってしまうと、新しい方向で何か考えていかないとなかなか難しいのかなというのはちょっと考えちゃいます。

○委員 小学生とかの皆さんが個人的に児童館に行くのは、それはそれで、声を出したりできるとかであるかなとは思んですけども、小学校の取組として図書館に行くというのは、小学校と図書館の連携で増やせることかなと思うので、学校からの申出が減ったというのが多分私は気になるのだと思います。図書館からどうですかと聞くことはできないのかな。

○会長 その点いかがですか。つまり、学校からのオファーが減ったんだけど、逆に図書館側からアプローチしたらいいじゃないかと、学校や生徒さんにアプローチしたらどうかというような御提案だと思いますが、いかがですか。

○深沢図書館長 もともと年度初めに1回こういうサービスがありますよというのは、学校には言っただけではあるんですけども、ただ、やっぱり来なかったことに関して、これからどうなんだろうというのは言っただけではいいかもしれないと思います。

○会長 今日、委員がお休みなので、学校側の様子も聞きたいところなんですけど、やはり世田谷区の図書館全体にとっての今後の大きな課題だと思います。今、深沢図書館だけじゃなくて、子どもさんの読書とか、子どもさんの図書館利用にどう図書館からアプローチしていくのか、これは大きな問題だと思いますので、いずれこの場でも議論したいと思います。

○委員 図書館というより、せんだってちょっと学校の先生と話す機会がありまして、結局、地域図書館のことを御存じない、要するにカリキュラムの中でやっぱり図書館を使おうとか読書をやろうといったときに、地域図書館が何ができるのか、どんな蔵書があっ

て、どういったことを依頼できるのかといった具体的なイメージが持ちにくいとおっしゃっていたんですね。もちろんいろいろ地域が替わるので、前の自治体ではこうだったという活発な自治体でいろんなことをされていた先生ですと、そういうイメージをお持ちなので、あれもこれもと思われるんですけれども、そういうことの経験をされたことのない先生方だと、やっぱり知らないということがまず一番に来るので、多分ブックトークができますとか、学年ごとにこういった提供ができますとかという蔵書リストを見せるだけでは先生方がイメージを持ってない。なので、調べ学習に関しても、もうこなれた方は、御自分でこういう資料が欲しいから、こういう本をぱぱぱんとリストに挙げてくださいと言えるらしいんですけれども、そういったことのなかなかされたことのない先生方ですと、どう依頼をしていいかがまずそもそもよく分からないという、何とも言えない歯がゆい話を聞きまして、極端な話、図書館側からすごく営業アピールではないんですけれども、こういったこともできます、ああいったこともできますよといったような具体例をもう少し挙げていただけるようになると、少し変わってくるのかなと、ちょっと話を聞いて思いました。

○会長 ありがとうございます。それは多分深沢図書館だけの問題じゃないんですね。だから、いずれ学校のほうも前田委員だとか、中学校の先生方の意見も聞いた上で、この協議会としてやっぱり提案をいずれしたいと思いますね。それはもう今年度の最後、先ほど申しあげましたように、1月とか3月の場で、もう一度改めてその問題は検討させていただきたいと思います。繰り返しになりますが、その問題は深沢図書館だけの問題ではないはずなんです。したがって、今日の議事としては次の図書館のほうに移らせていただきたいと思います。

○事務局 先ほど委員からの外国資料の選書、選び方の件で、一応外国資料に関しては選書基準がございまして、そういったものがあつた上での個人の選び方というところでございます。補足させていただきます。

○会長 今の点はちゃんと記録にとどめておいたほうがよろしいかと思います。ありがとうございました。

それでは、申し訳ありませんが、次の桜丘図書館の検証に移らせていただきます。よろ

しくお願いいたします。

○桜丘図書館長 桜丘図書館長です。どうぞよろしくお願いいたします。

桜丘図書館では、令和6年度の取組項目ということで、基本方針2の子どもの健やかな成長を支える図書館の図書館利用に困難を抱える子どもへの対応、基本方針3の地域の特徴を活かし人々がつながる図書館の中で、地域の各施設、機関との連携ということで選びました。それで、図書館利用に困難を抱える子どもへの対応ということで選ばせていただいたのは、実は桜丘図書館に隣接している区立の笹原小学校で、都内に9か所しかない目の教室ということで、弱視の子どもたちの通級指導学級がありまして、これを使わない手はないだろうということで、図書館としてはちょっとアプローチして、ぜひとも図書館活動の協力をしたいということで、一昨年、令和5年からちょっと関係を持たせていただいています。

地域の各施設、機関との連携につきましては、令和2年10月に認知症とともに生きる希望条例が施行されまして、各あんしんすこやかセンターの所在地を単位として認知症アクションチームというのが各所で立ち上がっているんです。桜丘図書館の地理的な関係では、経堂のあんしんすこやかセンターが拠点になっておりまして、経堂の認知症アクションチームというのが立ち上がっておりまして、たまたまこれはちょっと棚からぼた餅みたいないなところがあったんですけれども、こちらの代表されている方が図書館の隣にお住まいになっておりまして、図書館のヘビーユーザーということで、ぜひこの活動に図書館に御参加いただきたいということで、せっかくおっしゃっていただいているのに、それはやらない手はないだろうということで、当初から参加させていただいております。後から伺ったところによると、この認知症アクションチームを区内で今28か所だったかな、要するにあんしんすこやかセンター単位でつくられているところで図書館が参加しているのは経堂だけだということで、自慢していいかなとちょっと思っています。

実施状況についてなんですけれども、まず図書館利用に困難を抱える子どもへの対応ということで、目の教室との連携についてなんですけれども、こちらに表があるような取組になっております。昨年は貸出しが減っちゃった理由を私が把握していないところがあるんですけれども、こちらの側で担当者が丸替わりしちゃったところがあって、先方との連絡がちょっとうまくいなくてこんな結果になっちゃったのかなと思っております、ちょっと反省すべき点です。

今年度に関しては、当初からちょっと頑張ってお組をしております、逆に学級のほうの担当の先生が4月から替わられたんですけれども、その先生が普通の方だったというところも、変なんですけれども、取組を後退させるような方ではなかったので、今年は積極的に攻めていきたいなと思っております。こちらで蔵書を増やしたというのはあるんですけれども、何分にも小さな地域図書館のことなので、中央図書館の障害者サービスの担当の方ともちょっと御協力いただいて、今年もいろいろ活動していければいいかなと思っております。

あと地域の各施設、機関との連携の認知症アクションチームとの取組なんですけれども、例年、図書館が関わって行っている部分については、活動自体はいろいろやっているんですけれども、ここに挙げさせていただいた落語を楽しむ会と、あと認知症講演会というのがあります。落語を楽しむ会について、ここでちょっと写真なんかを載せたりしているんですけれども、区民センターで土曜寄席ということで毎月活動していらっしゃる方と、あと都立松沢病院の先生で、落語が御趣味で、認知症落語というのを御自身で新作落語として作って実演していらっしゃる方がおられまして、その方に御協力をいただいて行っているということで、毎年やっております。実は8月2日に第3回目をするんですけれども、こちらはやっている場所が桜丘区民センターの中の図書館が地下1階に入っているんですけれども、お昼までということもあるので、図書館としても参加して、一応図書館ということで挨拶させていただいて、図書館で認知症の本が借りられますとか、いろいろ使えますよということをしてPRさせていただいているという感じで、このところ、2年間は図書館を知ってもらいたいということで活動しておりました。

認知症講演会についてなんですけれども、こちらは、図書館ということにかかわらず、地域要望として、区民センターの中に図書館があるということで、区民センターの利用懇談会、運営協議会のほうにも私は参加させていただいているんですけれども、ここでやっぱり関わられている方が地域で高齢の方が多いということもあって、認知症の講演会を聞きたいという要望があるということはずっと把握していたんです。私がこのアクションチームに参加させていただいているということもありまして、それでは、やっぱり図書館として講演会を継続して毎年できたらいいなと思いましたので、ずっとやらせていただいているという感じです。殊に去年は桜丘図書館が開館40年ということもあったので、ちょっと予算を多めにつけていただいたので、割合にメジャーな方を、もちろん認知症関連ということなんですけれども、お呼びすることができて、やっぱりメジャーな方というのは、

図書館的にも本をたくさん書かれている方というのがあるんですけれども、結構御著書の多い方ということでお呼びできたので、ここにも書かれておりますように、参加の希望者の方もすごく多くて、かなり大盛況で終われたというのがありました。

自己評価というか、今後の展望的なことも入るんですけれども、笹原小学校の目の教室の関わりについては、去年みたいに後退することがないように、おはなし会の回数を増やすとか、あと本の入替えもまめに行って、ほかにも何かちょっと協働でやれることがあればやりたいということで、事業展開も今後充実させていきたいということと、あと地域の各施設、機関との連携ということで関わっている認知症アクションチームとの活動についても、関わられている方が多少福祉の關係に寄ってしまっているというところはあるんですけれども、本当にいろんな方が関わられているので、今のその事業としての図書館の関わり以外にも、個別にそういう関わられている方と何かできたらというのがあって、ちょっとその辺は今後いろいろ展開していきたいなと考えているところです。

桜丘図書館については以上です。失礼いたしました。

○会長 ありがとうございます。それでは、何か御意見、御質問があればお出しください。どなたからでも結構です。

○委員 私は、桜丘図書館の直属の希望丘図書室の近くに住んでおり夫はヘビーユーザーです。それで、とても地域に開かれたいい図書館だなと思っていますけれども、私の肌感覚で言うと、学校に通っている公立の子どもたちが、外国人を親に持つ子どもたちが非常に多いという感じがしています。それはうちの地域だけではないと思いますけれども。そうすると、その子たちはやっぱりちょっと読んだり書いたりということが苦手だったりとか、そういう傾向があって、私が支援塾を開催しているんですけれども、そこにも結構な外国人が親という子どもたちが来ています。図書館できれいな絵本をこの子たちに読んでもあげたいなという気持ちはすごくあるんですが、やっぱりそういう子たちへのアプローチも少し図書館のほうでも考えていただけたらなと。本当に増えているという実感があるので、少し注目をしていただけたらなと思います。

○桜丘図書館長 こちらのほうでは、来ているお子さんがもちろん外国人の、外国にルーツを持つお子さんはいないわけではないんですけれども、ちょっとそれは把握し切れてい

なかったなというがあるので、逆に情報を下さいというか、こちらとしてももちろんアプローチしていくというのはすごくやりたいと思うので、情報提供していただけると逆にすごくありがたいなというのがあるって、何か甘えちゃっている感じなんですけれども、ちょっといいことを聞いたなと今思いました。

○委員 だから、親が図書館に多分たどり着いていないんだと思うんです。なので、そういうところが何かつながればいいなと思います。

○会長 そういうお子さんはやっぱり区立の小学校に通われているんですか。

○委員 はい。

○会長 そうすると、やっぱり学校との連携だな。

○委員 そうだと思いますね。

○会長 学校でも、例えば日本語が十分できないがために、先生が言っていることが分からないとか、そういう意味では、地域でやっぱり取り組んでいかないと取り残されちゃうと思うので、図書館だけではなくて、やっぱり学校だとか、あとは特別支援というものもあるんだけど、外国に関してやっぱり学校がどう取り組んでいるのかちょっと聞きたいところなんです。ありがとうございました。

○委員 それからもう一つ、希望丘図書室には、本当に珍しい台所が、キッチンがついているんです。だから、それを利用して新しい取組ができるといいなと、地域の人とできるといいななんてみんなで言っています。

○会長 ありがとうございます。その点いかがですか。キッチンがある。

○桜丘図書館長 キッチンというか、もともと希望丘図書室の子どもの部屋があるところは集会室だったんですよ。それが平成31年だったかな、移管されて、こちらの持ち物にな

ったという経緯があります。ただ、図書室の体制として、もちろん正規の職員はいなくはないんですけれども、今、短時間再任用ということで、職員とは微妙に立場が違う。なので、組織的な問題として、なかなか授業ということに取り組めないというのがあって、それは組織の話になっちゃうというか、一言では言えないことになってしまうので、だから、逆にその地域のほうから要望を出していただいたほうが、もしそういうことでしたら、なかなかここでは一言では言えない部分があります。

○委員 地域の人たちはもったいないねと言っているので、何か考えていってみたいと思います。

○会長 先ほどの多様な子どもさんというか、いろんな文化的な背景を持った子どもさんたちがいるのであれば、食文化を通じて交流するというようなことは、キッチンがあるんだったら、そういうことも考えられるかなと、私は話を聞いていて感じました。

○委員 自分の活動が図書館における子どもの成長とお話に関するボランティアをしているので、どうしてもそちらからの話になってしまいます。

桜丘図書館では、私のグループも非常に頻度高く活動させていただいています。桜丘図書館にかかわらず、複合施設内にある図書館で幼い子どもを対象としたおはなし会をするときに、子ども担当の方の努力がなかったら、参加人数に大いに差が出ております。やはり桜丘図書館では、児童館スペースに、おはなし会が始まるから、とにかくお客になるお子さんと親子を呼んでこようということで走り回っていただいて、参加者が増えるというようなことがありますので、やはりその努力をさせていただいていることに感謝していますし、もしそれがなかったら、同じことをしても、その時間を楽しんでいただける人数は大いに変わってくると思います。ですので、大変かとは思いますが、今後も協力し合って、少しでも多い参加者があるといいなと思っています。

また、先ほどちょっと深沢図書館のところでお話しできなかったんですけれども、深沢図書館にはじゅうたんスペースというものが「ぐりぐら」の辺りにあります。図書館の中の限られたスペースの中でおはなし会をする場所の確保ということを考えたときに、桜丘図書館にはおはなしの部屋というのが地図にもありますけれども、午後のおはなし会はそこでしておりまして、午前中の主に1歳未満になるおはなし会は児童館のスペースでやっ

ています。その柔軟な対応が、やっぱり図書館でできる範囲でもない、なかなか参加者を増やしていくとか、そういうことができないかなと。

じゅうたんスペースというのは、もしもほかの図書館の来館者の方の迷惑にならないのであれば、ああいう形で児童図書のところスペースがあるのは、今育休中のお母さんが主に来館して、午前中など図書館を利用しているように思いますので、そういうスペースが各図書館にあるか、またはまだ椅子に座れない子どもを連れた親子に対して、おはなし会だけではなくて、図書館に来たときに利用できるスペースがあるというのは、オープンスペースの中で少しでもあるといいのかなと、深沢図書館へ伺って思いました。桜丘図書館にはそういうおはなしの部屋という場所があるんですけども、そこは通常閉じていて、そこで子どもを下ろして本を広げるというスペースではないので、それが取れるということは恵まれているけれども、実際の利用者にとってはどうなのかなとちょっと思う部分もあります。

でも、総じて言えば、職員の方にはすごく努力をいただいている、複合施設内では、先ほど営業じゃないですけども、自分から、図書館の方のほうから呼び込みをとか、お知らせをとか、そういうことはお話にありましたけれども、現在もいただいていると思いますし、それがなかったら、やはり大いに利用者には差が出てくるなと感じています。いつもありがとうございます。

○会長 御意見ありがとうございます。おはなしのスペースは桜丘はありましたか。

○桜丘図書館長 会長がいらしたときには、対面朗読室ということで御案内しちゃったんですけども、あそこを流用している。もともと図書館としてやっぱり40年にもなるので、つくりが昭和で古いので、多分そういう発想が当時はなかったんじゃないのかなと思います。

○会長 桜丘も、先ほどの深沢もそうで、施設的にはどこもちょっと手狭なんですよ。だから、その制約の中でいろいろ工夫をされているというのはよく分かるんですが、今のおはなしのスペースも、あそこ自体には、普通の借りたスペースには、そういうスペースは残念ながらないんですよ。対面朗読の部屋をそういうふうに活用されているということですか。

○委員 そうしますと、コロナのときに換気ですとか、いろいろありまして、心がけたほうがいい部分があります。でも、そういうところは、密室で、換気がしにくい、あと可視化されていないので、閉じたスペースになるので、一般的な利用には不適切というようなことがありますので、今後、どんなことがこの先起こるか分からないので、本来はあまり適切じゃない状況になっているのかなと思いますが、その場所が取れているという意味では、恵まれているのかなとも思います。

○会長 ありがとうございます。いずれもちょっと老朽化しているので、そういうスペースの使い方としてはなかなか難しい側面があるかと思います。

桜丘図書館の場合の私がちょっと気になったのは、認知症への取組で、これは家族が認知症になった場合の対応の仕方が中心なんですか、それとも今全国でむしろ増えているのは、認知症に本人がなりにくいというか、今言っていたのは認知症予防のための取組と、どちらの色合いなんでしょうか。

○桜丘図書館長 どちらかという、認知症の御本人が認知症になっても地域でそのまま暮らせるというのが、ここのグループの目標というか、そのためにどういう取組をしたらいいかというようなことで活動はしています。

○会長 分かりました。そういう取組はなかなか図書館としても重要な取組だと思います。身近な図書館でそういうふうな取組をしていただけると、そういう方々にとっても心強いんだろうと思います。ありがとうございます。

それでは、次の図書館に移らせていただきます。次は尾山台図書館で、館長、お願いいたします。

○尾山台図書館長 よろしく申し上げます。

令和6年度の取組を2点挙げておりまして、その取組項目ごとに御説明させていただきます。

まず1点目が、基本方針1の求められる知識・情報を確実に提供する図書館の中から、知識を深め認識の世界を広げるようなコレクションの構築と提供というものです。これは

主に選書の問題なんですけれども、やはり職員が得意な分野というのはおのおのあるものですから、そちらは大丈夫なんですけれども、やはり職員の入れ替わりとか、そういったことを考えると、ずっと同じことをやっているわけにもいかずに、1年ごとに入れ替えるわけですが、そこで選書のばらつきが出ないように、どのように選書していくかといったものの課題になります。目標としたのが、いろいろな選書のツールというものももうあらかじめ出しておいて、こういったものの使い方というのを理解して、効果的なある程度一定のレベルを確保した選書ができるようにしていこうというのが目標になります。

まず、この点について取組の実施状況になります。こちらの13ページの下のほうになりますが、こちらは利用者のアンケートから取った指標になっておりまして、3点取っております。今まで知らなかった世界や考え方、関心分野が広がったというようなところも含め3つです。97%、96%、100%と、大体前年と同様の値になっているかと思います。実施した内容についてですけれども、例年行っております貸出予約動向の調査であるとか、新刊案内からというのは行っておりまして、あとは書評であるとか、場合によっては書店とか、職員が行った際に平積みされているものであるとか、そういったものを確認したりとか、あとは最近はインターネット上にもいろんなサイトがありますので、そういったものからこういうのを使えるんじゃないかというのを探してくるというようなものです。あとは、やはり窓口では、この新聞に載っていたんだけど、これはありますかというような質問が多いものですから、そういったものをピンポイントで調べてみて、もうよさそうだなと思ったら、その場でその時点で買ってしまうというようなニーズに沿ったようなやり方というのもやっております。

こちらに関して自己評価、これは14ページの真ん中辺に飛びますけれども、全体として数字で見ると、評価がやっぱり下がってしまっておりまして、ちょっと残念だなとは思っているんですけれども、その中でも個別にこちらでピンポイントで調べて買ったものが、結果的にはうちしかないんだけど、予約が複数入っていたりというようなものもあつたりと、一定の効果はあったのかなと思うんですけれども、今後の課題としてはやっぱりこのツールということで、業者の売り込み等もありますので、そういった情報を活用するというような必要性を考えております。

次に、取組方針の2つ目です。こちらは、子どもの健やかな成長を支える図書館の中から、子どもの読書を支援する取り組みの拡充ということで、こちらは子どもの読書離れ、あとは子ども自体が減っているというのもあるんですけれども、子どもが本に接する機会

を増やして本に興味を持ってもらうというような必要があるというところから、主に子どもが直接職員と接する機会であるおはなし会の参加人数をちょっと増やしていこうという目標としております。

こちらについて指標としては14ページの頭になります。まずこれは5つ挙げられていますが、最初の2つは、うちのほうで職員が何をやったかという話で、実際におはなし会るときに展示をした、説明をした、あとはその冊数が何冊であると、これは力を入れてやったので、当然、前年比より増えるんですが、その下の3つというのが、その結果どうだったかという話になるわけなんですけれども、貸出数、その下も、先ほど冒頭の説明にあったとおり、児童1人の貸出数とか、こういった数字が出ておりますが、ほぼ横ばいというような状況です。

一応自己評価としては、コロナの影響でおはなし会をシャットダウンして、後からあまり人数が戻ってきていないという実感が実はありまして、ただ、子ども自体が減っているということを考えると、一応自己評価としては横ばいだったので、お子さんのほうに接する機会は多少増えているのかなというような感覚を持っています。

今後の目標としては、おはなし会は、一般の児童の書架のある2階ではなくて、1階層上のおはなし室というところなので、お子さんが直接そこに来てという話になるものですから、おはなし会ときには呼び込みとかはやるんですけれども、そうではなくて、ちょっと児童書架でとか、場所を変えてとかいうようなことを考えております。

以上です。

○会長 ありがとうございます。この尾山台図書館につきましてはいかがでしょうか。

○委員 御説明ありがとうございます。おはなし会のところで、コロナでシャットダウンしてみたいなお話があったんですけれども、令和6年と5年だと、御努力を非常になされて、数字がどんどん上がっているんですが、コロナ前の例えば実施状況、何回ぐらいやられていて、例えばこの表で御紹介いただいている冊数が、コロナ前でどれぐらいだったかと御紹介いただければありがたいんですが。

○尾山台図書館長 実は私が異動してきたのがちょうど令和2年で、コロナで休館中にちょうど来たところでして、すみません。ただ、ボランティアさんと一緒にやっていますの

で、その方のお話とかを聞くと、今おはなし室、ある程度広さはあるんですが、ここにせいぜい10人とか15人とかというところが結構いっぱいになっていたという話も聞きますので、今の倍以上あったんじゃないかと、お話を聞く限りでは思っております。

○委員 ありがとうございます。分かりました。では、まだコロナ前までのレベルには、おはなし会の盛況ぶりというのは戻っていないというイメージなんではないでしょうか。

○尾山台図書館長 そう思います。今でも子どもさんの各回の参加人数は取ってはいるんですが、いまだに一人も来ないというときが時々あります。1か月に1回あるかないかなんですけれども、ありまして、下へ行っても、勉強をしている小学校の高学年のお子さんだけだったり、おはなし会自体が絵本の読み聞かせだったりするものですから、お声がけしても、あまり大きなお子さんが来てくれないんです。そういうお子さんしかいないとか、どうしようもない状況もあったりして、まだまだ戻っていないと感じております。

○委員 ありがとうございます。ちなみに大人も含めた来館者数というのはコロナ前と比べてどういうイメージかというのは、同じ質問ですみません。

○尾山台図書館長 前のデータを知らないのですが、ちょっとなんなんなんですけれども、ただ、今、窓口に出ていて、すごい並んでしまってどうしようもないみたいな状況にあまり接しないものですから、別の館にずっと前にいたことがあるんですが、そのときはかなり並んでしまって応援の職員を呼んでみたいなのも経験した身からすると、今は減っているのかなと思います。

○委員 ありがとうございます。

○委員 選書についてすごく工夫されているようですけれども、私が基本的に分かっていないので、中央図書館の方にお聞きしたらいいのかもしれませんが、選書というのは、あらかじめ図書館ごとに年間何冊までオーケーとか、そういうのが決まっていて、図書館独自で選書するようになっているんですか。バランスとかも取らなきゃいけないと思うんですけれども、その辺はどうなっているのかなと。

○事務局 何冊までという決まりはないんですけれども、あらかじめ各館の規模であったり、蔵書数、あとは利用状況、それに応じて予算のほうを割り振って、この館は幾らまでという形で制限というか、枠をつくっております。

購入に際してなんですけれども、購入の事務マニュアルがありまして、それに沿った形でおよそ選書していくことになるんですけれども、各館のバランスの面でいうと、そのマニュアルの中に、中央館、地域館の役割分担であったりとか、あとほかの館の発注状況を見て、購入のほうを検討するということになっていますので、特に会議的なものは設けていないんですけれども、そういった発注状況の中で冊数を調整しているのが実情です。

○会長 ということでよろしいですか。それは尾山台の図書館と何かつながりがあるんですか。

○委員 選書の工夫をされているので、その辺が分からなかったので、お聞きしたんです。

○会長 いずれ世田谷区としての選書基準とか資料受入れ方針、あれは公開するというようなことで今、検討していただいているんですよ。蔵書構築方針というか、そうですね。今の時点ではまだ公開されていないように思いますが。

○事務局 今現在は事務マニュアルという形であるんですけれども、今、公開を前提に策定作業のほうを進めております。

○会長 ありがとうございます。いずれ区全体としての選書基準が公開されることになるだろうと思います。

○委員 尾山台図書館に伺いまして、ぱっと入ったときに、今、お話を伺って、いろんな選書という、いろんな本があるという感想を私は持ったんですが、本を探そうと思って伺うとすごく楽しい本棚だと思ったんです。ただ、これを探したいなと思って行ったときに、ちょっと探しにくいかなというイメージを私は持ったんです。何でかということ、やっ

ぱりどうしても子どものことがちょっと気になるものですから、YA文庫であつたりだとか、児童書のところといったときに、あまり区別がされていないというか、もう絵本とか、児童というのはその区域があつたんですけれども、いわゆるその中間の中高生あるいは小学校高学年ぐらいの子たちがちょっと読み始めるかなといったような本が、もう児童書ではなくて、大人のほうの小説とかに入っているような私は気がして、探したり本を見つけたという楽しさという意味ではいいかなと思ったんですけれども、それとはまた別に、やっぱりそっちの子たちが探しやすいというか、こういう面白い本があるよみたいなところがもう少しあってもいいのかなという印象をちょっと私は受けました。

見つけられていなかったら申し訳ないんですけれども、いろいろ意図が、図書館のそれぞれの提供に私が気づかないという場合もあるので、こうだというところがあつたら申し訳ないんですが、本当に印象として思ったので、でも、よく見ると、ここにこんな本があつた、こんな本があつたというのを見ながら私は見たんですが、そういった区分けをもう少ししていただけるといいかもしれないと、そういった年齢の子たちにはいいかなというのが印象としてありました。

○尾山台図書館長 おっしゃるとおり、ヤングアダルトのコーナーは持っていないんです。読み物については、高学年向け、低学年向けという大ざっぱな分けはあります。実は書架を一部転用、ふだん使っていたものと別の使い方をしようというようなときに、候補として挙がりはしたんですけれども、どうしても児童書庫の近くを取れなかったんです。そこは残念ながらライトノベルコーナーになっちゃったんですけれども、そういったことは検討はしたんですが、どうしても場所がないので、実は児童の本でもっと小さい子が読む本の棚を新たに新設とかしたんですが、それでちょっと思ったのが、キャパシティはどうしても館の規模によって決まっていますので、棚をどうかして増やしてというのをやっても、床面積が減っちゃうだけなので、それもできないなと、進められないなと思っています。もしやるとなると、かなり大きく、ヤングアダルトはそれなりのスペースが要ると思いますので、蔵書数としてはもちろん変わりませんが、今の小さいお子さんが読んでいるようなものとのバランスを考えてつくれるかつくれないか、もしつくれるとしても、小規模なものになっちゃうかなという印象は今持っています。

○委員 館の都合というものはあると思うので。

○会長 尾山台の図書館に行ったときに、今の点を私はちょっと館長さんとお話しさせていただいた、おっしゃるとおりなんですね。特に雑誌が減ったということで、ライトノベルを並べているんです。ところが、あれが雑誌架に並んでいるために新聞コーナーと一緒になんです。そうすると、新聞を読む年配の方たちとライトノベルコーナーが共存しているのは、あれでは中高生は絶対に足を運びにくいなと私は感じて、そのとき、もうすぐに館長さんにそれを意見したんですが、あれはしょうがないです。後からあそこをライトノベルコーナーにしたんですね。

○尾山台図書館長 そうです。雑誌の旧廃刊がちょっと増えちゃいまして、うちは3面あるんですけども、整理すると1面丸々空いちゃうような状態になっちゃって、雑誌架は御存じのとおり、箱になっちゃっているんで、大きい本があるやつは駄目だとか、やっぱりシリーズもので一番最新刊だけ前に置いておくようなつくりになっているので、シリーズものじゃなきゃ駄目なんですね。意外とライトノベルは大人の方が借りているというのもあるんですけども、ちょっと不思議なんんですけども、確かに中高生は入りにくい。ただ、あそこをつばさ文庫とか、要するにヤングアダルトにしちゃうと、館の見取図、資料に載っていますけれども、実は雑誌のコーナーと児童のコーナーは、長細い館内の両端になっちゃうんです。なので、児童コーナーの飛び地とするのもちょっと無理があって、そのような状況になっております。

○会長 もうおっしゃるとおりなんですね。お分かりだと思いますが、今日の資料の15ページに尾山台図書館の平面図があるんですが、左下に児童コーナーがある、右下に新聞・雑誌コーナーがあって、この新聞・雑誌コーナーの階段寄りのところにライトノベルコーナーがあるんですよ。だから、ここに中高生は雰囲気的にはなかなか足を運びにくいなというところで……。

○委員 でも、あれは感動しましたけれどもね、あつ、すごいと思って。

○会長 最初、私もすごいな、これはと思ったんですよ。

○委員 開けて中をちゃんと確認したら、あるっと思って。

○会長 バックナンバーがちゃんと中に入っているんですよ。それ自体はいいんですが、もう少し中高生が足を運びやすい雰囲気にしてもらえると、利用は間違いなく伸びると思います。

○尾山台図書館長 ありがとうございます。分かりました。

○会長 尾山台図書館、ほかはよろしいですか。立地としてはなかなかいいところにありましてね。

○委員 おっしゃるように、立地はもうメインストリートで、駅近で、商店街のど真ん中で、地区会館と一緒に、地区会館の1階のところも広々としていて、実際、来館者数が2年連続でかなりの伸びで、なかなかないと思うんです。

あともう一つ気がついたのは、今のお話で、1階の新聞・雑誌コーナーで腰かけがあって、机と椅子という形じゃないんですけれども、腰かけて座れるコーナーで、あそこはかなりゆったりされていて、その分、逆に言うと、総面積の割には26席、閲覧室が机と椅子がきっちりあるのはある程度限られていて、入ったフロアで割と出入りしやすい、新聞・雑誌コーナーが大きめというか、同じぐらいの席数があったと思うので、これは意識して、来館者数がこっちのほうで回転が多くて、いろんな人が来やすいということでおやりになっているのか、そうでもないのか、そこをお伺いしたかったんです。

○尾山台図書館長 雑誌架の前の9つ並んでいるあの椅子のことですかね。あれは特にそういう意識ではないんですけれども、もともとコロナのときは、ぎゅっと9つまとめてあって、周りしか座れないように減らしてあったんです。それをちょっとばらけさせていっぱい座れるようにはしてありますけれども、そこまでは考えていなかったです。申し訳ありません。あとは2階部分は雑誌のコーナーのあるエリアはあまり机を置いていないんです。机のあるものはみんな3階に集約してしまっていて、そこはコンセントつきにしているというような状況です。

○委員 ありがとうございます。

○会長 多分2階と3階でそういうふうに、2階はややゆったりとした感じ、3階が少し静かな勉強するような空間に区切られているというか、切り分けているんだろうと思いました。ありがとうございました。

それでは、最後になりますけれども、次の上北沢図書館に入りたいと思います。副館長、よろしくお願いします。

○上北沢図書館副館長 上北沢図書館副館長です。本日、館長が都合により欠席なので、私が代わりに参りました。

では、上北沢図書館の令和6年度の実施項目、1つが、基本方針2の子どもの健やかな成長を支える図書館の中から、項目といたしましては、子どもの読書を支援する取り組みの拡充、これを選択いたしました。もう1点、基本方針3の地域の特徴を活かし人々がつながる図書館の中から地域の人々との連携、地域の人々の図書館活動への参加を選択いたしました。

では、それぞれの実施項目につきまして、課題と目標、実施状況、自己評価についてお話をさせていただきます。

まず、子どもの読書を支援する取り組みの拡充ということで、子どもが本に出会う機会を広げるために、図書館内の展示やイベントの継続的な実施及び参加人数の増加を図っていく必要があるという課題を設定いたしまして、その中で目標としましては、ディスプレイの工夫をすることにより、来館しやすい環境づくり、それとPRも工夫しておはなし会等への参加促進を図り、読書に親しむ機会を提供するという目標を掲げました。

これについて令和6年度の実施状況ですが、回数等々につきましてはこちらの表に示してあるとおりでございます。おはなし会につきましても、ここで、回数につきましては一定のサイクルでやっておりますので、多少の増はございましたが、参加人数がかなり増えているなどお感じになったことと思います。こちらにつきまして、おはなし会の参加者が低年齢化しているということがありました。特に乳児対象のおはなし会につきまして、前年の倍以上の参加がございました。こちらのPRにつきましては、共通利用カード作成時に、お子様の場合であれば、こういった取組を、おはなし会をやっていますよということを御案内差し上げる、そういった共通利用カードの作成時だけでなく、通常の貸

出しや返却の際にも、お子さんが一緒にいらした際には、こういったおはなし会がありますよということでPRをしているというところがございます。それと展示のディスプレイにつきましても、かわいらしく作成してアピールをしてきたところでございます。

この点に関する自己評価ですが、先ほども申し上げましたとおり、展示ディスプレイの工夫、これは季節やイベントに応じた装飾、これは展示コーナーであったりおはなしの部屋でも実施をいたしまして、その結果、おはなし会への参加人数が増えて、親しみやすい読書環境づくりが行えたという評価をしております。

続きまして、2番目の地域の人々との連携、地域の人々の図書館活動への参加についての課題と目標、実施状況、自己評価についてお話しさせていただきます。こちら課題といたしましては、地域の活動団体との連携及び協働に当たりまして、地域で活動するボランティアを育成し、図書館での活動を支援したり、地域の人々との連携を図り、図書館活動への参加に協力してもらう必要があるといった課題を設定いたしまして、それに対してどういった目標を掲げたかといいますと、サラダ勉強会の参加者を増やし活動の場を確保するということを目標といたしました。

サラダ勉強会はこちらに書いてあるとおりなのですが、旧学校おはなし会ボランティアの養成講座修了生のスキルアップを図るために設立されたものでございます。こちらにつきましの令和6年度の実施状況ですが、18ページのほうにございますとおり、サラダ勉強会やサラダおはなし会の回数や参加者数はこちらに挙げているとおりでございます。サラダ勉強会につきましては、コンスタントに実施できて、近隣の図書館でも勉強会の周知をしてもらっているところでございます。

それから、地域特性のコーナーといたしましては、近隣に賀川豊彦記念松沢資料館があることからその方のコーナーを、それと都立の松沢病院という大きな病院がございしますが、それが近くにあるという御縁により、心と体の健康コーナーというのを独立して設置をして、見やすい蔵書の管理に努めております。

それと、影絵作家の石井昭様、今は既にお亡くなりになりましたが、この方の御家族から影絵を借用して定期的に入れ替えながら展示を行っております。

これの自己評価ですが、サラダ勉強会につきましては、図書館独自の取組で参加人数がもう少し増え、おはなし会の回数も増やせればと思いますが、活動場所が増えたことは喜ばしいと感じております。

それから、賀川豊彦記念松沢資料館や石井昭様の御家族との関係を良好に保っていく中

で、地域になじんだ図書館づくりが行われてきたと自己評価をしております。

簡単ではございますが、私どもからの説明は以上となります。

○会長 ありがとうございます。ただいまの上北沢図書館につきまして何か御意見、御質問があればお出しください。いかがでしょうか。

○委員 居住エリアが近いので、ディスプレイがいつも素敵でとても親しみやすい、いい図書館さんだなと思っています。

今回の報告を拝見しまして、特に、地域の特性を生かした取組に注目しました。その一つとして、福音寮への訪問という活動を積極的になさっていらっしゃるんですが、これはもうずっと長く続けていらっしゃるのですか。

○上北沢図書館副館長 どれぐらいから開始しているものかというのは、私は承知しておりませんので、何年続いているかというのはごめんなさい、ちょっと分かりかねるところなんです。私も、先ほどの説明に入れようかなと思ったんですが、福音寮は、一応私もで今、ここでは子どもの読書のほうで取組項目として挙げていますが、ただ、本当に徒歩数分の圏内にある施設なので、地域のほうとも連携しているものかな、どっちの取組項目に入ってもいいものだよなど、私はそう感じておりました。ちょっとお答えがきちんとできず申し訳ございません。

○委員 福音寮がこの地域にあって、私どもの文学館もそうなんですが、いろいろな形で何かできないかということはずっと考えておりました。特に今、経験格差という社会問題があり、私どものような施設ができることは取組みを試行錯誤しておりますので、上北沢図書館さんと、こういった福音寮への取組なども文学館がご一緒させていただけると、そのノウハウを学ぶこともできてありがたいと思い、一言申し上げました。

○委員 小学校4年生の子どもと中学生の子どもがおまして、おはなし会なんですけれども、子どもが松沢小に行っているんですけれども、小2に出張おはなし会というのを毎年やっていただいております、1度たまたま授業参観の日だったので、その1時間見せていただいたんです。とてもすばらしいもので、後から子どもとお礼に上北沢に行った覚

えがあるんですけども、それはこのおはなし会の実施回数に入っているんですか。それともこれは入っていない、図書館でやっているものだけなんですか。

○上北沢図書館副館長 出張おはなし会は、私どもは小学校3校に行っていますが、それが17ページの表に入っているかどうか、ちょっと私も承知しておりませんで、申し訳ございません。

○委員 そうなんですか。分かりました。

先ほど尾山台図書館だとなかなかおはなし会に来てくださる人がいないと言っていたので、人の調整とかがあると思うんですけども、できる方とかもなかなか少ないかと思うんですけども、そういう出張おはなし会とかをやると、クラス単位で結構盛り上がっている感じだったので、やっぱり本とかが楽しいと子どもが思うのかなと思いました。

あと例えばなんですけれども、今Bunkamura、渋谷でレオ・レオーニ展とかやっていて、先日行ってきて、すばらしくて大盛況だったんですけども、そういう近隣でやっている人気の展示に合わせて図書館でも、そこを飾ったり、本を厚めに置いたりすると——スペースの問題もあると思いますし、中央図書館とか割とそういうのをやっているなというイメージがすごくあるんですけども、ほかで近くで見てきたものを、夏休みにまた図書館でもいろんな本に触れるとかいうのがあると、上北沢図書館だけじゃないんですけども、できるスペースがある図書館でやっていただけると、いつ行っても同じものだとかやっぱりちょっと飽きてしまうので、行く人が楽しめるような展示があるといいのかなと思ったりいたしました。

あとは全体的に、たまたまほかで見た図書館で子ども読書通帳というのをやっているところがありまして、通帳を見たら、借りたタイトルと著者名と価格が出ていて、それが積み上がっていくというのがあって、これはなかなか楽しいんじゃないかなと。読んだものが目に残っていく。通帳という銀行の通帳と同じスタイルなので、読めば読むだけ合計金額も出てくるというのは、もしかして結構通うきっかけになるのかなという、機械の問題とかがあるので、なかなかお金がかかる話だと思うんですけども。

あとは、私も今小学校でずっとおはなしボランティアをしているんですけども、サラダ勉強会というのがあったのは実は存じ上げませんで、上北沢は割と近いので、私も時々利用させていただいているんですけども、それぞれ図書館で、先ほど桜丘図書館も認知

症のアクションをやっているということで、割と個人的に興味があるなと思ったんですけども、そこでやっているというのを全然知らなかったのも、割とホームページはよく見て、お知らせとかも、よくイベントとかはチェックするほうではあるんですけども、それでも結構知らないことが多いので、やっぱり図書館に足を運んだときに、この図書館ではこういうことやっているとか、もっと欲を言えば、例えば上北沢図書館に行っても実は世田谷区内の図書館でこの図書館ではこういうことやってますというのがあれば、図書館はどうしても家の近く、一番近いところしか行かないんですけども、でも、そういうのをやっているというのが分かれば、わざわざ行ってみたいなという気になるのかなと、それぞれが結構いろんな取組をされているので、来館するきっかけになるのかなと思いました。

あとは、先日、松沢児童館に行って、子どもが小学生なので、サマーキャンプに参加するので、待っている間に時々行くんですけども、やっぱり居心地がいいんです。スペースが広いというか、靴を脱いでくつろげるソファとかもあって、かつ児童館は今漫画が物すごい充実しているんですよ。「ドラえもん」とか、多分図書館では全然置いてもらえないような漫画がばっと置いてあるので、あとSwitch、ゲームもオーケーなので、やっぱりどうしても図書館よりは、ゲームもできて、冷房も効いていて、漫画もいっぱいある児童館のほうに子どもが流れていくのは、それはそうだろうなと。やっぱりそこだと多少友達としゃべっても大丈夫だし、居心地という意味では、小学生にとっては、たまたま松沢児童館がきれいにしたばかりなので、余計そういうソファがあったりとか、古い建物なんですけれども、何かくつろげる感じがやっぱりあるので、そちらに……。

あと1階に例えばボールをぶつけ合いっこするスペースとかがあるので、やっぱり体をすごく動かせたりするので、行く人がいて、図書館はどうしてもやっぱり子どもは静かにしなきゃいけないし、もちろん体も動かせないから、なかなか足がやっぱり行きづらいのかなというのをちょっと感じます。実際に子どもがいて、いろいろ児童館に行ったりとか、読み聞かせボランティアでクラスに、教室に入ったりとかもしているので、そうですね。

あと外国人ルーツの子どもが多いというのは、やっぱり読み聞かせボランティアをしていて感じていて、1年生で全く日本語が分からない子どもたちに一体どこまでの絵本を読んでもしまっているのかというのは、やるほうとしても結構悩んでおりまして、やはり外国人ルーツのお子さんは割と多いなと、日本語だけの本でいいのかなということで、意外と

中国語と英語ができる外国人のお母さんが中国語と英語で読み聞かせも一緒にしてくれたりとかもしているんですけれども、同じ絵本だけれども、外国語と中国語でやって、日本語でもやるとかいう朝会の短い時間だったりするんですよね。そういうのをちょっと工夫してやったりはしております。

全然話がずれてしまってすみません。

○会長 さっきの子どもの読書とか利用が減っている話でいくと、深沢図書館でも児童館に少し取られているんじゃないかというような御意見がありましたが、図書館の児童コーナーが児童館に近づくという意味では、やっている内容が、少々しゃべってもいいとか、それこそ多少ボール遊びができるとかというふうに、図書館の児童コーナーが児童館に近づいたほうがいいのか、逆に児童館にある、漫画が置いてあるとかで、児童館が図書館に近づいていったほうが子どもにとって利用が伸びるのか、そこらあたり、ちょっと今日は時間がないのでやりませんが、いずれこの協議会の、来年度というか、これが一通り終わったところで、1月か3月あたりにその辺の議論はしたほうがいいと思うんですよ。子どもの利用の減少をどう考えるか、それから、それは食い止めたほうがいいのか、いや、それはもう自然の流れなんだから、そのまま行ったほうがいい、あまり図書館側がじがばたしないほうがいいという考え方もあるとは思うんですよね。そこらあたり、あらかじめ委員の皆さんも念頭に置いていただいて、年明け1月か3月あたりにその辺を締めくくりの議論としてさせていただこうと思っています。

ほかにも、先ほど委員が言われたように、区内の図書館のやっぱり配架と、それから書架の見出し、あれがすごく硬いんですよ。いわゆる日本十進分類法の言葉をそのまま掲示しているんですね。あれはやはり一般の利用者の方にはちょっと親しみにくいというのかな、分かりづらいとは思いますね。だから、そういったことも含めて、区全体の図書館の抱える課題について、少し意見交換をしたいと思っております。今の委員のいろんな感じられたこともその一つになってくると思います。

今、委員どう思いますか。さっきの図書館の児童コーナーが、むしろ児童館的になっていったほうがいいのか、いや、児童館に置いてあるところが図書館的になっていったほうがいいのか。

○委員 私は子どもと本をすごく読む、物すごい本を借りていたりするんですけども、児童館にももちろん漫画以外にとってもいい本がたくさん置いてあるんですよ。図書館に置いてあるような絵本が置いてあるんですが、やっぱり子どもは読まないですね。児童館も漫画だけじゃなくて、結構良書がたくさん置いてあるんですけども、やっぱりそこにいる子どもたちを見ると、ゲームをやっているか漫画、だから、図書館寄りのものもあるけれども、手を伸ばすきっかけになっていないんですよ。もったいないなと思うんですけども、いい本がたくさんあるのに……。

○会長 そのあたり、学校の先生も委員でいらして、今日はたまたまお休みですけども、そういう先生の御意見も聞きながら、少し協議会としての意見をまとめたいとは考えています。

○委員 例えば夏休みに読書感想文というのが、今、公立の小学校は、お兄ちゃんの時きも下も全くなくて、ちょっと押しつけだったり、あともしくはこれを読みなさいと本を押しつけたりとかするんですけども、やっぱりきっかけがないと余計読まないというのは、宿題でもあれば、課題であれば、休みには1冊本当は手を伸ばすはずが、今はなくて、それが先生の働き方改革の負担を減らすためなのか、全体的によく分からないんですけども、古い昔のことなのか、本当はそういうのとかがあれば、児童書というか、いわゆる本を読むようになるのかなとかいろいろ考えます。

○会長 それがいいのかどうかよく分かりませんがね。ありがとうございました。

上北沢図書館についてちょっと個人的に一言だけお伝えしておきたいと思います。それは、私が行ったときに、賀川豊彦先生のコーナーがありますよね。私はあそこにしばらくたたずんでおりました。詳しいことは、また近いうちに私、上北沢の図書館に参りますので、そのときに賀川豊彦先生とのつながりや、その後も実は人生のいろんな場面で賀川豊彦先生と私は遭遇しているんです。その辺のお話もそのときにさせていただきます。

○上北沢図書館副館長 お待ちしております。

○会長 今はとても時間がないので、そこまでにしておきます。本当にあのコーナーをぜひ大事にしていきたいと思います。ありがとうございました。

○上北沢図書館副館長 本当にいろんな御意見をありがとうございました。

○会長 お約束の時間になりましたので、取りあえず今日の5館についての御意見、御質問はこれで終わらせていただきたいと思います。

次回に向けて、事務局から何か連絡事項がありましたらお願いいたします。

○事務局 次回、10月24日金曜日18時30分から第3回目となります。今回は粕谷、鎌田、経堂、梅丘の仮事務所、奥沢の仮事務所と中央図書館という6館になってございます。また次回もぜひよろしくお願いいたします。

○会長 ありがとうございました。それでは、次回はもう既に御案内のとおり、10月24日金曜日の6時半からということになります。事前に各館の取組シートがやはり送られてまいりますので、今日と同じようにそれを基に活発な御議論をしていただければと思います。

それでは、第2回の世田谷区立図書館運営協議会、これで閉会とさせていただきます。どうもお疲れさまでした。ありがとうございました。

午後8時31分閉会